

高知県立文学館は、高知城の東ふもとにあります。  
平成9(1997)年、高知県を中心とした文学の魅力をお伝えるために誕生しました。

さまざまなテーマで展開する企画展も自慢ですが、私たちのなにより自慢は、常設展示室です。  
いつ来ても新しい発見がある「**変わる常設展**」、  
初めて来たお客様が必ず驚く「**文学者の数**」と「**情熱**」、  
ふたつの特別室「**寺田寅彦記念室**」、「**宮尾文学の世界**」、  
小さな子ども楽しめる「**子どものぶんがく室**」。  
観光に、憩いの場に、学習の場にも。一日を離れて、  
奥深い高知の文学を心ゆくまでご堪能ください。

■ 開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

■ 休館日 年末年始(12月27日～1月1日)  
※その他メンテナンス等で臨時休館あり

※7月6日(月)～7月8日(水)臨時休館

■ 観覧料

●企画展開催期間(常設展含む)…企画展ごとに異なります

●企画展を開催していない期間(常設展のみ)…一般400円

- ・20名以上の団体は2割引
- ・高校生以下無料
- ・身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、  
障害者手帳、被爆者健康手帳をお持ちの方とその  
介護者(1名)、高知県・高知市長寿手帳をお持ちの方は無料
- ※窓口で手帳等のご提示をお願いする場合があります

■ 駐車場

なし ※近隣に有料駐車場あり

■ 附帯設備

ホール、ミュージアムショップ、こどものぶんがく室、  
茶室「慶雲庵」 ※ホール、茶室は貸出しをしています



茶室「慶雲庵」



ホール

時間を忘れて楽しめる、文学館のミュージアムショップ。



図録、企画展にあわせたグッズ、専門書のほか文学館オリジナルグッズを職員が企画し、多形に取り揃えています。ますます充実するミュージアムショップにぜひお越しください。

交通のご案内



- とさでん交通バス・路面電車「高知城前」から徒歩5分
- Jバス高知から徒歩20分
- (またはとさでん交通バス・路面電車を利用)
- 高知龍馬空港から空港連絡バス「北はりまや橋」下車、徒歩20分



〒780-0850  
高知市丸ノ内1-1-20  
電話 089-822-0231  
FAX 089-871-7857

HP://www.kochi-bungaku.com  
E: bungaku@kochi-bunkazaidan.or.jp

運営：公益財団法人 高知県文化財団

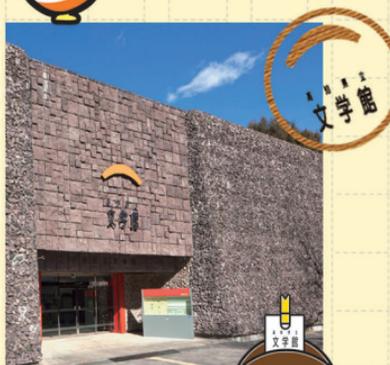


# 高知県立文学館 年間イベントガイド

令和8年 令和9年  
2026.4 ~ 2027.3



高知の文学の魅力をお届けします。



常設展示室入口

常設展示室内

寺田寅彦記念室

こどものぶんがく室

変わる  
常設展！

本年度は、森下雨村、倉橋由美子、上田秋夫について新たに入れ替え、詳しくご紹介しています。寺田寅彦ミニ企画コーナーでは、昨年に続き寅彦の絵に関する展示をします。  
宮尾文学の世界室では宮尾登美子の歴史小説を中心にご紹介します。

常設展企画コーナーは…

「西澤保彦追悼展」/「収蔵品展」

令和8年4月1日(水)～令和9年3月22日(月・祝)

本格ミステリーとSF要素、緻密なロジックを融合させる独特の作風で知られた西澤保彦(1960～2025)のあゆみを紹介する「西澤保彦追悼展」と、令和9年で50年を迎える高知県子ども詩集『やまもも』を中心に貴重な当館の収蔵品の数々を紹介する「収蔵品展」を開催します。



西澤さんによる講演会の様子(平成21年)

1

## 生誕100年記念 宮尾登美子展

～生きてゆく力～

令和8年 4/11(土)～6/28(日)

場 所：企画展示室 観覧料：600円(常設展含)



今年生誕100年を迎える作家・宮尾登美子は「女性の一生を描く」ことを自身の命題として、いつの時代でもそれぞれの環境の中で粘り強く、より良い方向を目指していく、そんな女性の生き方を丹念に描いてきました。

本展では、『岩佐寛之書』等初期作品の源泉となった父の日記や、創作ノート、取材メモなど貴重な資料を紐解き、宮尾作品の女性達の生き方を時代背景を通して見つけ、今を生きる私たちへのメッセージを探ります。

7/6(月)～7/8(水)まで臨時休館

2

## 体感するファール昆虫展

令和8年 7/25(土)～9/27(日)

場 所：企画展示室 観覧料：600円(常設展含)



世界各国で翻訳され、今なお広く読まれ続けている『ファール昆虫記』。とくに日本では長い間愛され続け、科学書としてだけでなく、文学作品としても高い評価を受けています。

この展覧会では、日本アンリファール会が所蔵する彼の遺品や、『ファール昆虫記』にちなんだ昆虫の標本をはじめ、世界各国の虫たちの標本を展示。

また、遊びながら虫の生態を学べる体験コーナーもあります。『ファール昆虫記』で紹介される虫たちの驚くべき特性を、ぜひ高知で体感してみてください。

企画展年間案内

3

## 生誕100年記念 松谷みよ子展

～こころの学び舎～

令和8年 令和9年

10/17(土)～1/11(月・祝)

(※12/27～1/11は年末年始のため休館)

場 所：企画展示室

観覧料：600円(常設展含)



松谷みよ子の生誕100年を記念しての展覧会。

松谷みよ子は1951年『貝になった子供』でデビューし、『龍の子太郎』『小さいモモちゃん』『ふたりのイダ』など、児童文学、民話、小説、詩集等、多岐にわたるジャンルで読者の心に残る作品を書き続けました。高知との関係も深く、「お月さんもちいる」に代表される土佐民話の探訪、創作もされています。その生涯を紐解きながら、作品の魅力に迫ります。



よさこい高知  
文化祭2026

その他の催し物

※イベントの日時・内容は変更になる場合がありますので、詳細はお問い合わせください。  
(文学館のホームページでは最新の情報がご覧いただけます。)

◆おはなしキャラバン(毎月第1土曜日 午後2時～前30分)

※参加料：無料  
直接会場(こどものふんがく室)にお越しください。

当館カルチャーサポーターによる土佐民話紙芝居や絵本の読み聞かせを中心にやっています。小さなお子様でも楽しめるクイズや手遊びなども交えながら楽しい時間を過ごせます。



◆語りと紙芝居の会 定例会

(毎月第2土曜日 午後1時30分～)

※参加料：無料 直接会場(ホール)にお越しください。  
語りと紙芝居の会のメンバーを中心に、参加者同士が語りや紙芝居の演じ方などを学びます。  
(原則毎月第2土曜日の開催ですが、変更になる場合がありますので、事前にお問い合わせください。)



◆朗読の会 (毎月第3土曜日 午後2時～)

※参加料：無料 直接会場(ホール)にお越しください。  
朗読の会本会では、朗読カルチャーサポーターによる顕彰作家や企画関連の文学作品などを中心とした朗読をお届けします。その他、サークル主体の回、学生回、朗読講座等を開催予定。  
(原則毎月第3土曜日の開催ですが、変更になる場合がありますので、事前にお問い合わせください。)



◆文学マイスター講座

(毎月第4土曜日 午後2時～) 5月、8月、12月を除く(予定)

※参加料：無料 事前申し込みが必要です。  
今年度の講座テーマは「昭和100年」。昭和時代に著された文学と作者、時代背景などを県内外の専門家の講義で学ぶ連続講座です。



◆近世土佐文学研究会

(毎週火曜日 午後1時30分～)

※参加料：無料 事前にお問い合わせください。  
近世土佐文学資料を中心に、原文を読み、解釈することで、古典に対する理解力や土佐の文学に対する関心を深める研究会です。  
(古文書読解レベルは上級。※初めの方は事前申し込みが必要です。)



◆朗読コンクール(地区審査(県内3会場) 8月/県審査 11月を予定)

今年で29回を迎える、県内小中学生を対象にしたコンクールです。児童生徒の皆さんによる表現豊かな朗読が披露されます。  
※6月中旬に各学校にてポスターや募集要項を送付します。文学館ホームページでもご案内しますので、あわせてご参加ください。



※おはなしキャラバンと朗読の会はそれぞれ  
出展公演も承ります。  
展覧会やイベントについての詳細は  
お電話にお問い合わせください。



4

## ちちははの目、こどもの声

～文学作品にみる親子像～

令和9年 1/23(土)～3/28(日)

場 所：企画展示室 観覧料：600円(常設展含)



『海辺の光景』に描かれた  
高知の海岸と山並み

文学作品のひとつの大きなテーマとして、親子の関係を描いたものがあります。安岡章太郎の『海辺の光景』、田宮虎彦の『絵本』など子の視点から親を見つめた作品、幼い我が子を想って編まれた清岡卓行の詩集『幼い夢と』など、親の視点から描かれた作品…。確執、愛情、または深い愛情など、様々なに交差する親子の姿を文学の視点から読み解くとともに、そこから見えて来る私たち人間の心のありようを見つめます。